

## 要望演題Ⅱ メディア・地域住民・支部との協働

10月23日(月) 14:10~15:10 第1会場(仙台国際センター 会議棟 2階 大ホール)

座長: 矢内 勝(石巻赤十字病院 副院長)

### Y-1-13

地域に貢献するための病院での取組みについて

仙台赤十字病院 総務企画課<sup>1)</sup>、社会課<sup>2)</sup>、  
地域医療連携室<sup>3)</sup>

○松川 竜也<sup>1)</sup>、上妻 功治<sup>2)</sup>、広瀬 和之<sup>2)</sup>、  
大棒 美香<sup>3)</sup>、北 純<sup>3)</sup>

【はじめに】当院では地域への貢献を基本方針の一つに掲げており、これまで数々の企画や地域での行事に参加している。今回これらをまとめ、今後の活動への課題を考察することとした。【取組内容】当院では複数の部署において行事を実施している。総務企画課では一般市民を対象に年数回の市民セミナーや転倒の日、肺の日といった疾患による啓発企画の開催、同地域内にある工学系大学との連携、地域の催事へ参加を行っている。社会課では災害救護活動の一環として市内での催事等の臨時救護、救急法講習等の普及啓発を行っている。また、院内規模地震災害訓練開催時に地域住民へ仮想患者や炊き出しの協力依頼を行っている。地域医療連携室では地域の開業医と医療連携の強化を目的に地域医療連携の集いを開催している。【効果】当院では今までは地域活動に消極的であった。しかし、具体的な取組みを行い「日赤さんは変わったね」「日赤の活動が見えるようになってきた」といった地域の方からの意見が聞かれるようになった。特に市民セミナーでは治療内容の紹介も行っており「日赤に行ってみよう」といった感想が聞かれた。大学との連携は互いの機関の機能を補完し、地域の中での新たな役割を模索する良い機会となった。【考察と課題】取組みを通じ、職員は地域の中で病院がどのような役割を担うことができるか考えるようになった。今までは診療中心であり「地域の中で」という考え方は否定されてきた。しかし、地域包括ケアが推進されていく中で病院が置かれている地域について理解し、病院の役割をどのように発揮していくかが問われている。これからは各々の取組を検証し、より地域に貢献できる活動を行っていきたいと考える。

### Y-1-14

赤十字講習を通して地域を支える人材を育成する

石巻赤十字病院 医療社会事業部<sup>1)</sup>、  
日本赤十字社 宮城県支部<sup>2)</sup>

○高橋 洋子<sup>1)</sup>、本木 隆<sup>2)</sup>、小泉 信男<sup>2)</sup>、  
佐藤 麻子<sup>2)</sup>

【はじめに】被災地では、東日本大震災の学びを生かし、自助・共助の防災教育が強化されている。また、最大の被災地である石巻医療圏は、新たな地域づくりが急務となっている。この現況において、石巻医療圏での赤十字講習を活用し地域を支える人材を育成することを目的として、下記の取組みを行った。【取組み】震災後、当院では、医療社会事業部に「赤十字普及担当」を置き、気仙沼市も含めた石巻医療圏で、当院を核とした赤十字講習の普及を積極的に展開している。活動にあたっては、赤十字事業を通して地域に貢献することを目標に、2つの戦略目標を立てた。●赤十字講習を通して地域を支える人材を育成する●赤十字講習を通して赤十字の存在価値を高める石巻市・女川町に対し、赤十字講習をPRし、地域包括ケア・認知症ケア・健康づくり教室・防災教育・子育て支援等行政が行うべき施策への提案を行った。日常的に支部と連携し、地域づくりの要である行政・社会福祉協議会・子育て支援団体・学校に職員が出向き、赤十字講習について理解と協力を得ることができた。【結果】活動を通して支部との綿密な連携が確立し、行政の地域づくり事業の参画や、地域住民のニーズに合った講習に結びついた。石巻医療圏での講習回数は、震災前の3.6倍。受講者数は5.2倍に増加した。命の大切さを痛感している被災地だからこそ、地域の自助・共助の大切さ・日ごろの備えが命を救うことを、講習を通して再認識し、動き始めている。さらに、東松島市・南三陸町・気仙沼市に支部と共に働き掛け、新たな講習計画が示された。歩みはゆっくりであるが、赤十字講習を通して赤十字病院として、共に地域を創っていく形が見え始めた実感している。